

モニタリング結果報告書（平成24年度下半期）

施設
指定管理者
指定期間
施設所管課

神奈川県総合リハビリテーションセンター
社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団
H18.4.1 ～ H28.3.31
県立病院課 ()

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

C

<判定理由>

提案どおりに取り組んでいるほか、法人業務の効率的な運営を積極的に進め、収支状況も安定している。
また、不祥事についても積極的に対応し、被害者や入所者への心のケアを行い、今後の対応について速やかに改善計画を作成し取り組むなど、指定管理者として誠実に管理運営にあたっているが、提出された改善計画が確実に履行されるよう今後も指導する必要がある、C判定とした。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認 通知日	確認方法			指 導 等 の 有 無	備考（指導事項等）
			月 報 確 認	現 場 確 認	電 話 確 認		
10月	12月4日	12月25日	○	—	—	無	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
11月	1月4日	1月25日	○	—	—	無	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
12月	2月4日	2月28日	○	—	—	無	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
1月	3月4日	3月27日	○	—	—	無	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
2月	4月4日	5月2日	○	—	—	無	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。
3月	5月2日	6月4日	○	—	—	無	月報を確認、特に改善すべき事項はなし。

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

	提案内容	実施状況
1	<p>リハセンターの一体的な運営の推進 障害を持つ方の早期社会復帰を目的に、病院と福祉施設の連携のもと、医学的・職業的・社会的リハビリテーションの各分野を総合的かつ有機的に実施し、</p> <p>①民間の病院や福祉施設では対応が難しい重度・重複障害を持つ方へのリハビリテーションと生活・自立支援、</p> <p>②リハビリテーションに関する臨床、実践的な医学的・工学的・社会福祉学的領域を基盤とする調査・研究・開発、</p> <p>③地域のリハビリテーション活動を支える市町村等への支援などに積極的に取り組み、神奈川県が実施するリハビリテーション事業の中心的、指導的な役割を果たす。</p>	<p>・病院と福祉施設、地域支援センターの連携により、病院での医療リハビリテーションから福祉施設での社会リハビリテーションをセットにして社会復帰に向けた支援を行なうとともに、病院・福祉で培ったノウハウを県内の市町村、居宅介護支援事業所、ケアマネなどの地域資源に還元し、障害者が地域で自立した生活をしていけるよう、地域との連携をはかった。</p> <p>・長年にわたるリハビリテーションに関するノウハウの蓄積、豊富な経験により、多種多様な疾患、障害に対応した。また、多診療科による総合的な診療が可能であることから、身体障害、知的障害者など、障害者が持つ様々な合併症に対応した。医師・看護師・リハスタッフが障害者（知的・身障）の合併症への専門的理解、知識、経験を持ち、タイムリーな医療提供をおこなった。</p> <p>・職能、体育、リハ工学、心理といった独自の部門の存在とともに、多職種の連携、チームアプローチによる支援により、複雑な障害に対して個々のケースに対応するリハプログラム、技術の提供を行なった。</p> <p>・一般的な福祉施設では、看護師は日勤帯のみの対応となるが、リハセンター福祉施設では、神奈川県リハ病院との連携により看護師が夜間常駐し、注腸など医療的行為など、利用者の医療管理を行った。重症心身障害児者施設は、病院と併設されていることから当直医師による24時間の緊急対応が図られた。</p> <p>・理学療法、作業療法等の機能訓練では、病院から福祉施設での継続した訓練を行なうことができた。このように、リハセンターの一体的な運営として、医療と福祉が連携した対応を図ることができた。</p>

	提案内容	実施状況
2	<p>福祉施設の機能充実</p> <p>(1) 七沢学園</p> <p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>知的障害児（者）を対象に、保護及び更生に必要な医療と医学的・職業的・社会的リハビリテーションを神奈川リハビリテーション病院と連携して総合的に提供し、社会復帰（職業や家庭生活）への手助けをするとともに、在宅障害者の地域生活を支援する。</p> <p>医学的課題・行動的課題（強度行動障害）を持つ方や、民間施設では受入が困難な難治性てんかん（投薬調整・管理）や内科的医療管理（腎不全、心不全、胃腸、糖尿病等）などを併せ持つ医療重度者の受入を行なう。</p>	<p>実績又は今後の見込みを記載</p> <p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害児者に対し、病院と連携して難治性てんかんや胃腸等医療的課題のある方の受入や、強度行動障害、発達障害等を持つ方への支援を行ない、行動障害の軽減、環境への適応性の向上に取り組む、地域生活に向けた支援を行なった。 ・地域生活に向けた取組により、下半期実績として児童は退所者9人中6人(66.7%)が、また成人は退所者14名中10名(71.4%)の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができ、地域生活への移行への支援という役割を果たすことができた。 ・日中支援機能の充実のため、課題の多いケースには、神奈川リハ病院と連携して心理科の協力を得て行なうなど、個人に沿ったプログラムを充実し対応している。 ・他施設では受け入れが困難な医療重度者の支援に向けた入所支援サービスに取り組んだ。(実7名、一日平均5.8人入所) ・強度行動障害者への対応は、県強度行動障害対策事業連絡調整会議への参加、訪問調査などに取り組むとともに、神奈川リハ病院と連携しSST手法等を実施している。(SST手法とは、ソーシャルスキルトレーニングの略。知的障害者の社会生活力を高める訓練)(強行 児童:実2人(一日平均1.7人)、成人:実7人一日平均6.9人受入) ・感覚訓練用に神奈川リハ病院と連携し、OTからアドバイスを受けながら「スヌーズレン」を実施した。(重度知的障害者に対し、感覚刺激空間を用いて最適な余暇やリラクゼーション活動を提供する。これにより情緒の安定などに効果がある。) ・発達障害児に対し、神リハ病院心理科と連携したSST手法を用い、発達段階に合わせた支援プログラムを実施している。 ・知的障害児童に対して、療育期間1ヶ月から6ヶ月とした集中療育の支援プログラムにより、生活リズムの立てなおし、排泄訓練、体重コントロール、身辺処理の自立、コミュニケーションの拡大といった直接的なケアのもの、母子分離、集団適応能力観察、心理評価、行動観察・評価など間接的なケアのもの他、レスパイト、一時的な養護性、長期施設待機などの付帯的目的のものや、養育環境の整備、不登校の改善、行動改善を実施している。(4枠～5枠を活用し下半期7人を受入、年間13人を受け入れた。)

・各児童相談所との連携、家族支援、児童への精神的ケアなど被虐待児への支援を行った。

・複合施設ならではの取り組みとして、七沢学園では、23年4月から重度心身障害者の通所利用を初の試みとして開始した。また、身障者で更生ライトホームに入所した後七沢学園に移り地域移行を果たした利用者もあった。

・24年3月より高次脳機能障害の児童を知的障害施設の七沢学園の家族短期入所事業で受入れを行なっているが、平成24年度下半期は家族9名(対象児童5人、年間では家族14名(対象児童8名))の受入を行なった。受入にあたっては、小児科医や家族会、心理科の協力のもと、医師の講義や家族間の情報交換、支援員によるSST訓練などを行なった。

・地域のイベントへの参加、実習生、ボランティアの受入れなど地域との連携を図った。

イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策

個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。

イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策

・不祥事の再発防止に向けて、改善計画を作成し、現在取り組み中である。

・職場内研修、職場外研修(中央,厚木児童相談所)、派遣交流研修などを実施した。

・支援員が医療重度者に対する吸引を行うための資格取得した。(29人)

・施設内における感染症予防(インフルエンザ、ノロウイルス対策等)に努めた。

・金銭管理マニュアル、身体拘束マニュアル、投薬管理マニュアル、無断離棟検索マニュアル等に基づく適正な対応を行った。

・人権擁護対策チームにより、人権擁護の意識向上の為研修、人権チェック等を実施した。

・苦情解決への取り組みとして毎月第三者委員による個人相談を実施した。また、苦情解決委員連絡会を開催した。

・下半期の12月に利用者満足度調査を実施した。全体的に6割強が満足およびやや満足であった。

・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

・危機管理対策の一環として業務点検を実施し、安全管理体制、利用者対応体制、安全運転の確保等の点検を行った。

・内部監査を実施し、サービス関係、出納関係のチェックを行った。

・神奈川県 の 指導監査が実施された。

ウ 効果的・効率的な運営

採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む

・相談支援事業所等の訪問を行い、利用率確保に努めた。

・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。

(2) 七沢療育園

ア 総合性・高度専門性の発揮

重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重度心身障害児・者を対象とし、神奈川リハビリテーション病院との一体的な運営により、保護・治療・日常生活の指導と医学的リハビリテーションを提供し、障害の軽減や回復を図るとともに、在宅重症心身障害児者とその家族を支援する。

全身性の医療管理と看護が必要な超・準超重症心身障害児者の受け入れや、在宅重症心身障害児者を支援するための期限を設けた利用（中期入所5床、短期入所1床）を行う。

イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策

個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。

・消耗品などの購入に関しては、事業団の病院・福祉施設含む全体で一括して入札し単価契約を結ぶなど、費用の削減に努めた。

・重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重度重複障害児者に対する支援を行なうとともに、人工呼吸器や経管栄養法等全身の管理が必要な超・準超重症心身障害児者の受入や、中短期入所による通過型の支援により地域の在宅児者の支援を行なった。

・40床のうち10床を中短期入所枠とし、在宅重心児者の在宅生活の継続や課題解決に向けた支援を展開している。地域のニーズは高く、期待される役割は大きい。（年間で3,023人、一日平均8.3人の利用があった。）

・超・準超重症心身障害児者の受入については、中期入所を含め、年平均では15.7人（最大17.7人（計画8人））の受入を行ない支援した。在宅からの中短期入所者の低年齢化、医療重度化が進み、バイタルサインを計測するモニターなどの医療用機器が必須となっており、既にレンタル等で対応している。また、入所前に地域支援班と看護師が家庭訪問を行い、事前に情報収集、スタッフ間で共有し前もって準備にあたることで、保護者も安心され利用者、スタッフにとっても安心、安全な入所につなげている。

・県の委託により重症心身障害児者の巡回訪問を実施し、個人宅及び作業所、特別支援校などを訪問した。（年間77回実施 153人）

・重心親子教室 1回延3人の利用があった。

・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会発達支援部会へ参加した。

・園内の研修について、看護科・支援課と共同で計画・実施した。

・個人情報保護、人権擁護等について、研修の他、朝のミーティング時に対応等への意識付けを行っている。

・施設内における感染症予防（インフルエンザ、ノロウイルス対策等）に努めた。

・施設利用者の医療重度化に対応するため、人工呼吸器の取扱研修などを行なった。

・苦情解決への取組みとして、毎月第三者委員による個人相談を実施している。また、苦情解決委員連絡会を開催した。

・よりよい施設運営に向けて、1月に自己評価を実施している。また、10月に利用者満足度調査を実施した。

<p>ウ 効果的・効率的な運営 採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。 ・危機管理対策の一環として業務点検を実施し、安全管理体制、利用者対応体制、安全運転の確保等の点検を行った。 ・利用者のご家族からのご寄附でスヌーズレンルームを整備した。 ・内部監査を実施し、サービス関係、出納関係のチェックを行った。 ・神奈川県のご指導監査が実施された。 ・療育訪問指導事業等で施設利用相談を進め、利用に繋げている(「再掲」77回 153人) ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。 ・消耗品などの購入に関しては、事業団の病院・福祉施設含む全体で一括して入札し単価契約を結ぶなど、費用の削減に努めた。
<p>(3) 七沢更生ライトホーム ア 総合性・高度専門性の発揮 肢体不自由者及び視覚障害者を対象に、更生に必要な医学的・職業的・社会的リハビリテーションを神奈川リハビリテーション病院と連携して総合的に提供し、社会復帰(職業や家庭生活)への手助けをするとともに、在宅障害者の自立を支援する。 肢体不自由者については、脊髄損傷者や高次脳機能障害を持つ重度の肢体不自由者等を対象とし、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、就労、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるよう努め、障害者の社会復帰に向けた支援を行なう。 中途視覚障害者については、糖尿病等の医療管理を要する者、高次脳機能障害を併せ持つ者やロービジョン(弱視)者等を対象とし、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツ、職業復帰に向けた支援など地域での在宅生活に向けての支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院を退院したものの自宅での生活が困難な頸髄損傷、高次脳機能障害、脳血管障害等による重度の肢体不自由者に対し、病院に引き続く医療的リハビリテーションを行なうとともに、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、地域生活(家庭生活)が営めるよう支援を行なった。年間の退所者 40名(障害別内訳 脊損9人(内頸損による四肢麻痺7人)、脳外傷0人、脳血管障害24人、脳性麻痺1人、二分脊椎2人、その他神経疾患4人)(別に通所5名が退所した) ・疾病等による中途の視覚障害者に対し、感覚訓練、歩行訓練等によるリハビリテーションにより、地域生活が営めるよう支援を行なった。年間の退所者数 7名(別に通所20名が退所した) ・地域生活に向けた取組により、肢体不自由者については、年間の退所者40名のうち37名(92.5%)の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができた。視覚障害者については、年間退所者7人中7人(100%)の全員が家庭に復帰することができた。 ・また、入院中に賃貸住宅の期限切れや離縁などで住居を失った重度の障害者に対し、地域において単身生活ができるよう支援を行なった。 (年間の単身者の地域移行 肢体不自由者10名、視覚障害者2名) ・一貫した医療と福祉サービスの提供に向け、障害別に連続したプログラムに基づいて支援した。

- ・社会生活力向上のため、疾患別、目的別にグループワーク等を利用して多種多様な支援プログラムを提供した。
- ・肢体不自由者に対して、就労自立セミナーや、健康管理に関するセミナーを開催した。
- ・高次脳機能障害への取組みの為、日中訓練、家族懇談会等を実施した。
- ・若年の脳血管障害者や頸髄損傷者への支援を行ない、就労や自立生活へ向けた取り組みを行なった。
- ・視覚障害者の職業の紹介や、福祉機器や盲導犬の活用方法等のセミナーを実施した。
- ・視覚障害者の地域生活の充実のため訪問訓練を実施した。年間実17人、延38人を対象に実施した。
- ・神奈川リハ病院眼科外来と連携し、ロービジョン(低視覚障害)者の相談・技術支援等を行なった。
- ・特別支援学校高等部の在学生徒を対象とした「身体障害者受託評価」を実施した。(15名延人数74名)
- ・地域支援センターの主催する研修に講師として派遣するとともに、各地域の研修に職員を講師として派遣し、連携を図った。
- ・教員・保護者・当事者の見学希望、体験研修、実習等の積極的な受入れを行った。
- ・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会の生活支援部会に職員を派遣し、地域との連携を深めた。
- ・県内の社会福祉協議会や関係団体が主催するボランティア養成講習会等に職員を講師等で派遣した。
- ・職員の育成の為、積極的に福祉施設合同研修、神奈川リハ病院主催研修、施設外研修等に参加させた。
- ・人権擁護・虐待防止についての職員研修を実施した。
- ・施設内における感染症予防(インフルエンザ、ノロウイルス対策等)に努めた。
- ・施設利用者の急変時の対応を強化するため、AED研修などを行なった。
- ・苦情解決への取組みとして毎月第3者委員による個人相談を実施した。また、苦情解決委員連絡会を開催した。
- ・利用者満足度調査を実施した。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策

個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。

<p>ウ 効果的・効率的な運営 採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理対策の一環として業務点検を実施し、安全管理体制、利用者対応体制、安全運転の確保等の点検を行った。 ・内部監査を実施し、サービス関係、出納関係のチェックを行った。 ・神奈川県 の 指導監査が実施された。 ・地域医療機関説明会、見学会などを実施し、利用率の向上に努めた。 ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。 ・地域の回復期リハ病棟を訪問し、利用者確保を図った。 ・施設機能の広報及び利用者の開拓を目的に視覚障害者の生活訓練体験会を実施した。 ・相模原病院の外来通院患者および家族を対象に、国立相模原病院、神奈川リハ病院、ライトホームの合同で、「生活訓練体験会」を実施した。 ・視覚障害部門オープンセミナーとして、利用者の拡大を目的に、医療関係者を対象に支援技術と施設機能の紹介を行なった。 ・消耗品などの購入に関しては、事業団の病院・福祉施設含む全体で一括して入札し単価契約を結ぶなど、費用の削減に努めた。
---	---

	提案内容	実施状況
<p>3 病院の機能充実 (1) 神奈川リハビリテーション病院 ア 総合性・高度専門性の発揮 民間医療機関での対応が難しい脊髄損傷、脳外傷（高次脳機能障害）、骨・関節疾患や神経疾患等の重度・重複障害を持つ方の早期社会復帰を可能とする 総合的かつ 高度専門的なリハビリテーション医療を提供し、県民サービスの充実を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄損傷、外傷性脳損傷(高次脳機能障害)、変形性股関節症(手術を含む)、神経疾患、小児神経疾患等のリハビリテーションを行なうとともに、多診療科による障害者の総合診療・総合医療の提供を行なった。 ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行なうとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職・復学等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行なった。 ・退院患者のうちの主な疾患患者数 脊髄損傷(118人(内頸髄損傷65人))、高次脳機能障害(160人)、小児神経疾患(84人)、神経難病(51人) その他、変形性股関節症他 920人 ・退院患者のうち88.7%が自宅退院できた。 	

・多科・多職種による総合的関与が可能であることから、障害者の併存疾患に対する治療を行った。また、知的障害・精神障害者への医療の提供や身体障害者の合併症治療を行なった。(内科→各種臓器合併症治療、外科→内視鏡・障害者への手術対応、神経内科→精神障害・知的障害の併存疾患、皮膚科→マヒがあることで発生する陥入爪の治療、歯科→知的障害・脳性麻痺患者への全身麻酔下の歯科治療、麻酔科→知的障害者への全身麻酔、脊髄損傷者への全身麻酔等) 一般には、リハビリテーション病院に転院したとたんに、総合診療を受けられなくなってしまう。障害をもった人でも、大学病院や総合病院と同レベルの基本的総合診療を継続受診出来る。

・急性期病院等とのネットワークの強化の為、東海大学医学部附属病院医療連携情報交換会を開催するとともに、相互の医師間の連携(doctor to doctor)によるホットラインによる早期受入を行なった。

・高次脳機能障害者、頸髄損傷者に向けた就労支援の取組みを行なうとともに、地域就労支援機関等への助言・支援を行った。

・神奈川労働局より障害者雇用促進セミナーにおけるパネルディスカッションにコーディネーターとして、職能科スタッフに依頼があり協力した。

・上半期には、県内医療機関に勤務する理学療法士の卒後臨床教育(6人受講)へ取組んでいるが、理学療法士、作業療法士の専門研修のニーズが非常に高いことから、下半期では、地域支援センターの専門研修に位置づけPTOT専門研修を実施した。「PTOTのための土曜教室」として、毎月1回実32人延べ122人に対する専門研修を行った。

・総合療育センター(更生相談所)が行う身体障害者の補装具作成に伴う評価判定の協力として、医師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどが関わり、電動車いすと重度障害者意思伝達装置の評価判定を行なった。

・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、実証試験機関として医療・介護用ロボットの開発協力を行なうこととした。さらに、高齢社会課が進める介護ロボット普及センター事業にも協力し、ロボットスーツHALを使用し、効果検証を行うこととした。また、一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行なうなどの一定の支援を行なった。

・脊髄損傷、高次脳機能障害、変形性股関節症(術中を含む)、小児脳損傷、脳血管障害にクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。

・医師、栄養士、看護師等で構成する栄養サポートチームによる栄養療法、摂食・嚥下障害への対応を実施した。

イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策

個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。

ウ 効果的・効率的な運営

採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む

・厚木病院協会地域連携委員会や、厚木医療事務連絡会、県西部MSW連絡会等の近隣医療機関との連絡会、自立支援協議会等に参加し、地域連携に取り組んだ。

・医療安全管理会議等が企画する病院内の専門研修を企画・実施した。

・日本医療機能評価機構の認定病院として、病院機能の向上、患者サービスの向上に向けた取り組みを図った。

・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取り組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。

・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。

・入院患者満足度調査(10月22日～11月2日)、外来患者満足度調査(2月4日～2月8日)を実施した。

・禁煙外来による禁煙指導を行った。

・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。

・医療安全対策の取組みとして、離院、離棟搜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った

・リハセンター全体で、大規模震災を想定した総合防災訓練を実施し、大災害時の対応方法等の検証を行った。

・危機管理対策の一環として業務点検を実施し、安全管理体制、利用者対応体制、安全運転の確保等の点検を行った。

・内部監査を実施し、サービス関係、出納関係のチェックを行った。

・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。

①患者の確保に向け、近隣病院への入院案内(申込書)の発送、ソーシャルワーカー等を対象とした説明会を開催し、当院の機能と対象患者、入院手続きの説明を行った。(ソーシャルワーカーが交代すると当院を理解していないため、紹介患者が少なくなるため)

② 入院審査会を毎日開催し、特段の理由がない限り受け入れを行った。

③ トクターtoドクターによる紹介患者の早期受入

④ ソーシャルワーカーの事前患者情報収集の強化、急性期病院に入院中から、患者情報を収集し、病態、生活環境などを把握し、患者受入手続きの円滑化を図る。

⑤ ベッドコントロールの実施

- ・ニーズの高い小児科のベッド拡大
- ・診療科の枠を超えたベッド利用の推進
- ・在宅難病患者の緊急一時入院の協力
- ・他科の病棟の活用による利用率向上
- ・看護師の病棟間支援、柔軟な配置による他科病棟への業務支援

⑥ PFM(patient flow management)の導入による、入院患者への看護師業務の効率化の実施

⑦ 看護配置の調整など院内の調整を行なうことで亜急性期入院医療管理料を導入し、収入増を図った。

⑧ 小児科1日検査入院の実施

⑨ 査定減対策の実施 査定減の原因をレセプトと照合し、診療科にフィードバック

⑩ 未収金対策の実施

- ・ホームページや広報誌による広報活動の充実
- ・薬品については、県立病院全体での入札による単価契約に基づき購入するなど、費用の削減に努めた。

- ・検査試薬、診療材料は、事業団2病院で入札による単価契約を結び、費用の削減に努めた。また、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。

- ・消耗品などの購入に関しては、事業団の病院・福祉施設含む全体で一括して入札し単価契約を結ぶなど、費用の削減に努めた。

- ・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

(2) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター

ア 総合性・高度専門性の発揮

脳卒中のリハビリテーション専門病院として、脳卒中の予防から発症後のリハビリテーション、退院後の社会（家庭）復帰までの一貫した包括的・先進的な医療を提供し、県民サービスの充実を目指す。

- ・生活習慣改善による脳卒中の予防から発症後の回復期にある患者に対するリハビリテーション、さらには退院後の機能低下に対する再訓練を行なうとともに、高次脳機能障害や合併症による重度・重複障害の社会復帰に向けた支援を行なった。

- ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行なうとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行なった。

・退院患者702人のうち575人（81.9%）が自宅退院できた。

・入院患者の多くに何らかの高次脳機能障害を有しているため、臨床心理士、PT、OT、ST、看護師等による総合的アプローチを実施した。

・医療の質の向上を図るため、クリニカルパスによる入院から退院までの一貫した流れを図式化し、患者を含め情報を横断的に共有できることで入院期間の短縮やチーム医療の徹底が図られた。

《クリニカルパスの種類》

・脳卒中リハビリテーションクリニカルパス

・生活習慣改善入院クリニカルパス

・生活習慣改善入院の機能により、脳卒中の予防に努めた。（年間実41人 延1262人）

・入院時栄養スクリーニングを全患者に実施し、栄養サポートチームにより定期的に病棟回診を行った。

・摂食・嚥下障害のある患者に対して、摂食・嚥下障害看護認定看護師と他職種と共に回診し、多角的な視点からアプローチを実施した。間歇的経口食道経管栄養法（IOE）による経口摂取アプローチ、経口摂取に向けての食道へのバルーン拡張法

・「摂食・嚥下外来」や「禁煙外来」の専門外来を実施した。

・大学研究機関や企業と連携をし、新たなリハビリ技術であるロボット工学を活用した「パワーアシストバンド」の臨床検証を実施した。

・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、実証試験機関として医療・介護用ロボットの開発協力を行なうこととした。さらに、高齢社会課が進める介護ロボット普及センター事業にも協力し、ロボットスーツHALを使用し、効果検証を行うこととした。また、一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行なうなどの一定の支援を行なった。

・県内医療機関MSWを対象とした見学会の開催、自立支援協議会の参加等で地域関係機関との連携を図った。

・脳血管疾患患者の早期受け入れに向けて、救命救急センターとの連携強化に取り組んだ。

・患者の人権擁護等利用者サービス向上のため、研修を開催し、医療従事者として必要な知識の向上に努めた。

・脳卒中地域連携パスの推進として、8つのグループに参加するなどの取組みを行った。

イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策

個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。

・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取り組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。

・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。

・入院患者の早期離床、ADL向上の促進のため、土曜日リハビリテーション訓練を実施した。

・リハスタッフと看護職員が連携し、病棟内リハビリテーション訓練を実施した。

・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。

・医療安全対策の取組みとして、離院、離棟搜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った。

・リハセンター全体で、大規模震災を想定した総合防災訓練を実施し、大災害時の対応方法等の検証を行った。

・危機管理対策の一環として業務点検を実施し、安全管理体制、利用者対応体制、安全運転の確保等の点検を行った。

・内部監査を実施し、サービス関係、出納関係のチェックを行った。

・利用者満足度調査を10月に実施した。

ウ 効果的・効率的な運営

採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む

・回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰの施設基準を算定することにより、より重度の患者への対応を行なうとともに収益増を図った。
回復期リハⅡ1761点→回復期リハⅠ1911点

・診療報酬算定可能項目の追加
・感染防止対策加算2
・患者サポート体制充実加算

・服薬指導の充実（薬剤管理指導料1回380点と325点）

・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。

- ① 入院審査会を毎日開催し、特段の理由がない限り受け入れを行った。
- ② トクターtoドクターによる紹介患者の早期受入
- ③ 入院患者確保対策（54病院に対して毎週空床情報をFAXで送付等）
- ④ 患者の確保に向け、県内脳卒中連携パスの会議への参加
- ⑤ MSWと事務による病院訪問、パンフレット送付を行った。
- ⑥ 入院コーディネーターの充実により、入退院の円滑化を図った。

・ホームページや広報誌による広報活動の充実を図った。

・脳卒中公開講座の開催により、一般県民向けに脳卒中予防や病院の機能紹介を行なった。

・毎月施設の利用状況及び収入分析について経営会議で報告し、適切な施設経営に努めた。

・査定減対策の実施 査定減の原因をレセプトと照合し、診療科にフィードバックした。

・未収金対策を実施した。

・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

・消耗品などの購入に関しては、事業団の病院・福祉施設含む全体で一括して入札し単価契約を結ぶなど、費用の削減に努めた。

・薬品については、県立病院全体での入札による単価契約に基づき購入するなど、費用の削減に努めた。また、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。

・検査試薬、診療材料は、事業団2病院で入札による単価契約を結び、費用の削減に努めた。

	提案内容	実施状況
4	<p>地域支援機能 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>県域のリハセンターとして市町村が実施する地域リハビリテーションシステムの基盤整備事業の推進を図るための支援や技術援助を行い、障害を持つ方々の地域での自立生活を支えている。</p> <p>また、県の指定する「神奈川県リハビリテーション支援センター」として、全県的な立場から地域を支援するため、①リハビリテーション情報の収集・提供、②リハビリテーション専門相談、③リハビリテーション人材の養成等、神奈川県下のリハビリテーションシステムの構築に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リハセンターがこれまで培った技術・知識を地域に還元し地域リハ推進を支援するため、専門職種に対する研修、専門相談、情報の提供を行なうとともに、必要に応じて地域の個別困難事例に地域のスタッフとともに取り組んだ。 (年間実績 相談件数219件、研修34項目 実1615人 延1787人受講) ・県の高次脳機能障害支援拠点として、支援方法の普及、地域連携支援を行なうとともに、県単事業として巡回相談、関係機関コンサルテーション、地域ネットワークづくりに取り組んだ。 ・神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会の開催 地域支援ネットワークの充実を図る ・高次脳機能障害相談支援コーディネーターの配置により、個別支援、地域支援、研修、地域連携を柱にした事業を実施した。 ・年間実績 個別相談 依頼元件数 256件、巡回相談 (拠点施設での相談支援：県西部地区 1件、湘南東部地区 31件) ・政令指定都市との連携や自立支援協議会との連携、当事者団体との連携を行なった。 ・秦野市を対象にモデル事業を行い、支援技術の均てん化を図るとともに、市町村の専門人材の育成・連携支援を行なった。 ・新規研修の開催、出前研修を実施し参加しやすく工夫するなど専門職員研修を充実させた。 ・新規研修として、施設職員などを対象にリフトライダー養成研修を実施した。製品の紹介、使用方法の実技や補助金の申請方法等の紹介を行った。 ・地域リハビリテーション推進モデル事業を実施している秦野市において、市民フォーラム (H25. 3. 14 (94人参加)) と事例検討会を2回 (H24. 9. 21 (31人参加)、H25. 2. 15 (36人参加)) 開催した。多職種合同の事例検討会として、市内のケアマネジャー、相談支援員、訪問看護師、リハスタッフなどがグループワークによる検討を行なうことにより実践的な知識の共有を図った。 ・地域包括支援センター連絡会に参加し情報共有をすすめた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・2月に一般県民等に向けたかながわ地域リハビリテーションフォーラムを開催し、「在宅医療とリハと介護の連携」をテーマに特別講演とシンポジウムを行い、123人の参加があった。 ・ホームページのリハ実施機関情報を更新するとともに、「地域支援センターだより（広報誌）」により、リハビリテーション情報の提供を実施した。
--	--	---

	提案内容	実施状況
5	<p>研究機能 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>医療と福祉を一体的に運営しているという特徴を生かし、医学的・工学的・社会福祉学的領域において、関係機関と連携して臨床的、実践的な調査・研究・開発を展開します。</p>	<p>・病院・福祉施設であるリハセンターとして、臨床的・実践的な研究・開発を推進している</p> <p>【研究テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究 (2) 障害児者に関する福祉学・医学的研究 (3) 障害児者に関する計測的・工学的研究 (4) 障害児者に関する移動及び姿勢制御等の研究 (5) 福祉機器の開発及び評価支援システムに関する研究 (6) 障害児者の生活の質に関する研究 <p>【他大学等との連携した研究】</p> <p>○ 佐賀大学 医学部 准教授 松尾清美 株式会社岡村製作所 「足駆動による短距離移動が容易な椅子の研究」</p> <p>【各種委員会における共同研究等】</p> <p>○ 平成24年度国際標準共同開発事業への協力 ・車いす座位変換機能国際標準開発分科会への委員参加</p> <p>○ 平成24年度車いす付属品開発事業への協力 ・車いす付属品(プレーキ・クッション・テーブル)JIS開発委員会への委員参加 ・シルバーカーJIS開発委員会への委員参加</p> <p>・「移動機器フェスティバル」(H24.6.9開催)として、最新福祉機器の展示・体験、リハビリテーション工学の体験(義足体験、歩行分析等)、障害者スポーツ体験など、一般企業と協力して開催し、福祉機器の紹介に努めたが、下半期は来年度の開催に向け準備を行った。</p> <p>・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、実証試験機関として医療・介護用ロボットの開発協力を行なうこととした。さらに、高齢社会課が進める介護ロボット普及センター事業にも協力し、ロボットスーツHALを使用し、効果検証を行うこととした。また、一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行なうなどの一定の支援を行なった。</p>

日本リハビリテーション工学協会福祉機器コンテスト優秀賞を受賞した。神奈川県リハビリ病院作業療法士、神奈川県リハビリ病院リハビリテーションエンジニア、研究スタッフなどのスタッフによる高位頸髄損傷者向けのパソコン用キーボードスタンドを発案し、市販化も予定されている。

<リハ工学関係～車いす開発に関する研究 主な学会発表>

第27回リハ工学カンファレンス発表 8月

沖川発表 「新型電動スタンドアップ車いすの開発－第2報－」

村田発表 「頸椎損傷者へのレーザー投影式キーボード導入の試み」

第28回日本義肢装具学会 11月

沖川発表 「新型電動スタンドアップ車いすの開発」

4 収支状況

(単位：千円)

		収入額				支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		
募集時の積算額 (参考)		6,059,167	6,533,143	0	12,592,310	12,592,310	0
予算額	前年度	4,777,745	6,536,241	52,647	11,366,633	11,366,633	0
	上半期	2,231,420	3,268,120	26,323	5,525,863	5,525,863	0
	下半期	2,546,325	3,268,121	26,324	5,840,770	5,840,770	0
	今年度	4,602,788	6,232,031	53,421	10,888,240	10,888,240	0
	上半期	2,128,065	3,116,016	26,710	5,270,791	5,270,791	0
	下半期	2,474,723	3,116,015	26,711	5,617,449	5,617,449	0
下半期実績額	10月	224,185	529,985	3,408	757,578	701,481	56,097
	11月	259,081	476,959	7,834	743,874	683,042	60,832
	12月	956,097	526,379	8,546	1,491,022	1,488,060	2,962
	1月	303,991	494,192	2,243	800,426	684,907	115,519
	2月	262,791	471,261	7,578	741,630	712,299	29,331
	3月	362,844	475,430	9,730	848,004	625,978	222,026
	今年度 下半期合計	2,368,989	2,974,206	39,339	5,382,534	4,895,767	486,767
	前年度 下半期合計	2,350,453	2,932,776	33,564	5,316,793	5,387,281	▲ 70,488
	対前年度下半期比			③	1.2%	-9.1%	
参考	今年度 上半期合計	2,128,065	2,949,196	34,167	5,111,428	5,038,115	73,313
	今年度 合計	4,497,054	5,923,402	73,506	10,493,962	9,933,882	560,080

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	×	該当なし
② 今年度下半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	×	該当なし
③ 収入額又は支出額が前年度下半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：100,000円以上

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	4,935	神奈川リハ病院 本館エレベーター（5号機）改修工事
下半期	3,506	七沢病院新館（A館）西側非常階段他鉄部塗装工事
合計	8,441	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額 (千円)	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0 (期首)	
	0 (期末)	

- 1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
- 2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等
- 3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

(1) 七沢学園（児童・入所）

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	898 人	928 人	▲ 3.2 %
11月	868 人	900 人	▲ 3.6 %
12月	881 人	917 人	▲ 3.9 %
1月	924 人	965 人	▲ 4.2 %
2月	865 人	926 人	▲ 6.6 %
3月	926 人	886 人	4.5 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	4,941 人	5,151 人	5,568 人	4.3 %	▲ 7.5 %
今年度下半期計	4,914 人	5,362 人	5,522 人	9.2 %	▲ 2.9 %
今年度合計	9,855 人	10,513 人	11,090 人	6.7 %	▲ 5.3 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	×	該当なし
③ その他特記事項		

(2) 七沢学園（児童・地域支援【短期入所、家族短期、家族一日、日中一時支援】）

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	71 人	110 人	▲ 35.5 %
11月	64 人	100 人	▲ 36.0 %
12月	84 人	84 人	0.0 %
1月	41 人	67 人	▲ 38.8 %
2月	58 人	50 人	16.0 %
3月	97 人	86 人	12.8 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	606 人	523 人	530 人	▲ 13.7 %	▲ 1.4 %
今年度下半期計	606 人	415 人	497 人	▲ 31.6 %	▲ 16.5 %
今年度合計	1,212 人	938 人	1,027 人	▲ 22.7 %	▲ 8.7 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	○	短期入所については利用者の要望も高く、目標を上回っている。家族短期については、24年3月から高次脳機能障害に特化した受入を行ったが、体調不良等によるキャンセルが2回あったため、利用者数の減となった。
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	短期入所については利用者の要望も高く、目標を上回っている。家族短期については、24年3月から高次脳機能障害に特化した受入を行ったが、体調不良等によるキャンセルが2回あったため、利用者数の減となった。
③ その他特記事項		

(3) 七沢学園 (成人・入所)

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	1,419 人	1,623 人	▲ 12.6 %
11月	1,401 人	1,560 人	▲ 10.2 %
12月	1,448 人	1,622 人	▲ 10.7 %
1月	1,366 人	1,511 人	▲ 9.6 %
2月	1,177 人	1,406 人	▲ 16.3 %
3月	1,300 人	1,461 人	▲ 11.0 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	9,882 人	8,752 人	10,538 人	▲ 11.5 %	▲ 17.0 %
今年度下半期計	9,828 人	8,111 人	9,183 人	▲ 17.5 %	▲ 11.7 %
今年度合計	19,710 人	16,863 人	19,721 人	▲ 14.5 %	▲ 14.5 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	○	地域移行がスムーズに進んだ利用者が多かった。そのため、利用者確保対策として養護学校を対象に体験入所を実施したが、精神疾患を抱えた集団適用に問題のあるケースが多く、入所利用率向上に結びつかなかったことが主な要因である。
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	地域移行がスムーズに進んだ利用者が多かった。そのため、利用者確保対策として養護学校を対象に体験入所を実施したが、精神疾患を抱えた集団適用に問題のあるケースが多く、入所利用率向上に結びつかなかったことが主な要因である。
③ その他特記事項		

(4) 七沢学園 (成人・地域支援【短期入所、日中一時支援】)

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	59 人	156 人	▲ 62.2 %
11月	102 人	99 人	3.0 %
12月	87 人	76 人	14.5 %
1月	72 人	99 人	▲ 27.3 %
2月	58 人	59 人	▲ 1.7 %
3月	71 人	73 人	▲ 2.7 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	180 人	385 人	416 人	113.9 %	▲ 7.5 %
今年度下半期計	180 人	449 人	562 人	149.5 %	▲ 20.2 %
今年度合計	360 人	834 人	978 人	131.7 %	▲ 14.8 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	○	目標利用者数は大幅に上回っている。実人員でみると24年度下半期は115人であり、23年度下半期の78人に対し37人の増である。それにもかかわらず延利用者数が減少しているのは、24年度下半期の平均利用日数が短かったことが主な要因である。(24年度下半期3.7日、23年度下半期6.8日)
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	×	該当なし
③ その他特記事項		

(5) 七沢療育園 (入所)

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	1,158 人	1,102 人	5.1 %
11月	1,130 人	1,145 人	▲ 1.3 %
12月	1,193 人	1,149 人	3.8 %
1月	1,188 人	1,151 人	3.2 %
2月	1,089 人	1,134 人	▲ 4.0 %
3月	1,158 人	1,164 人	▲ 0.5 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	6,771 人	6,781 人	7,053 人	0.2 %	▲ 3.9 %
今年度下半期計	6,734 人	6,916 人	6,845 人	2.8 %	1.1 %
今年度合計	13,505 人	13,697 人	13,898 人	1.5 %	▲ 1.5 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	×	該当なし
③ その他特記事項		

(6) 七沢療育園（地域支援【短期入所、重心親子教室、療育訪問指導】）

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	37 人	28 人	32.1 %
11月	42 人	48 人	▲ 12.5 %
12月	30 人	40 人	▲ 25.0 %
1月	19 人	14 人	35.7 %
2月	34 人	20 人	70.0 %
3月	42 人	62 人	▲ 32.3 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	204 人	197 人	307 人	▲ 3.5 %	▲ 35.9 %
今年度下半期計	204 人	204 人	212 人	0.0 %	▲ 3.8 %
今年度合計	408 人	401 人	519 人	▲ 1.8 %	▲ 22.8 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	×	該当なし
③ その他特記事項		

(7) 七沢更生ライトホーム (入所)

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	1,595 人	1,965 人	▲ 18.8 %
11月	1,616 人	1,815 人	▲ 11.0 %
12月	1,798 人	1,864 人	▲ 3.5 %
1月	1,895 人	1,801 人	5.2 %
2月	1,869 人	1,768 人	5.7 %
3月	2,030 人	1,815 人	11.8 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	11,895 人	9,775 人	9,513 人	▲ 17.9 %	2.8 %
今年度下半期計	11,830 人	10,803 人	11,028 人	▲ 8.7 %	▲ 2.1 %
今年度合計	23,725 人	20,578 人	20,541 人	▲ 13.3 %	0.2 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	<p>利用者の減少事由として、平成24年4月の障害者自立支援法の改正により、障害程度区分の認定に相談支援事業所を介するようになり、区分認定に時間を要することになったことで、特に10月、11月の入所件数が減少した。</p> <p>利用者の確保対策としては、肢体不自由者については引き続き地域の回復期リハ病棟に訪問し情報提供していく。</p> <p>また、視覚障害者については、本人とその家族を対象とした生活訓練体験会を、11月、2月に実施した。</p>
③ その他特記事項		

(8) 七沢更生ライトホーム（地域支援【短期入所、通所、受託評価】）

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	173 人	127 人	36.2 %
11月	148 人	127 人	16.5 %
12月	126 人	183 人	▲ 31.1 %
1月	111 人	157 人	▲ 29.3 %
2月	87 人	160 人	▲ 45.6 %
3月	104 人	147 人	▲ 29.3 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	1,460 人	1,066 人	1,130 人	▲ 27.0 %	▲ 5.7 %
今年度下半期計	1,453 人	749 人	901 人	▲ 48.5 %	▲ 16.9 %
今年度合計	2,913 人	1,815 人	2,031 人	▲ 37.7 %	▲ 10.7 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	○	<p>【肢体】肢体不自由減の主たる事由は、短期入所が空床利用であるため、入所の利用者数が増加したことで枠の確保が困難になったことによる。</p> <p>【視覚】視覚障害の通所利用者は週に2日程度、特定の訓練を受講されるかたが多く、従来の毎日通所するという希望者が少なく、施設利用者のライフスタイルが変わってきたことが一因にある。</p>
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	<p>【肢体】肢体不自由減の主たる事由は、短期入所が空床利用であるため、入所の利用者数が増加したことで枠の確保が困難になったことによる。</p> <p>【視覚】視覚障害の通所利用者は週に2日程度、特定の訓練を受講されるかたが多く、従来の毎日通所するという希望者が少なく、施設利用者のライフスタイルが変わってきたことが一因にある。</p>
③ その他特記事項		

(9) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	7,380 人	7,543 人	▲ 2.2 %
11月	7,203 人	7,307 人	▲ 1.4 %
12月	6,837 人	7,023 人	▲ 2.6 %
1月	6,562 人	6,896 人	▲ 4.8 %
2月	6,628 人	6,735 人	▲ 1.6 %
3月	7,345 人	7,133 人	3.0 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	46,116 人	43,343 人	44,637 人	▲ 6.1 %	▲ 2.9 %
今年度下半期計	45,864 人	41,955 人	42,637 人	▲ 8.6 %	▲ 1.6 %
今年度合計	91,980 人	85,298 人	87,274 人	▲ 7.3 %	▲ 2.3 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	主たる理由としては、内科全般を統括していた常勤医師の退職により、主に循環器系の合併症をもつ患者等の受入が少なくなったことによる。対策としては内科系病棟においては緊急入院等診療科を問わず、患者の状態等により、可能な限り受入れるよう努めている。また、待機患者の多い病棟（整形外科病棟等）において術後患者を他病棟に転棟させるなどして、なるべく空床を埋めるよう工夫している。更に、外部医療機関へのパンフレット送付や当院のベッドの空き状況の提供等紹介患者の確保を強化している。
③ その他特記事項		

(10) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	7,037 人	6,763 人	4.1 %
11月	6,610 人	7,053 人	▲ 6.3 %
12月	6,157 人	6,453 人	▲ 4.6 %
1月	5,754 人	6,280 人	▲ 8.4 %
2月	5,962 人	6,550 人	▲ 9.0 %
3月	6,361 人	7,155 人	▲ 11.1 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	44,700 人	38,143 人	40,765 人	▲ 14.7 %	▲ 6.5 %
今年度下半期計	43,200 人	37,881 人	40,254 人	▲ 12.4 %	▲ 5.9 %
今年度合計	87,900 人	76,024 人	81,019 人	▲ 13.6 %	▲ 6.2 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	入院同様、内科における患者の減少が顕著であった。理由としては、常勤医師の退職（現状、医師の補充が週1回の非常勤）により毎日2名体制で行っていた診療が1名体制になってしまったことによる。整形外科等他の診療科での積極的な新規患者の受入れなどで全体的にカバーするよう努めていく。常勤医師の補充に向むけては、大学医局への訪問、医師紹介業者等により確保に努めていく。
③ その他特記事項		

(11) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター（入院）

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	4,661 人	4,178 人	11.6 %
11月	4,692 人	4,541 人	3.3 %
12月	4,606 人	4,888 人	▲ 5.8 %
1月	4,963 人	5,277 人	▲ 6.0 %
2月	4,866 人	5,013 人	▲ 2.9 %
3月	5,257 人	5,108 人	2.9 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	32,208 人	30,134 人	30,470 人	▲ 6.5 %	▲ 1.2 %
今年度下半期計	32,032 人	29,045 人	29,005 人	▲ 9.4 %	0.2 %
今年度合計	64,240 人	59,179 人	59,475 人	▲ 7.9 %	▲ 0.5 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	横浜、川崎など県内に脳卒中を対象とした回復期リハビリテーション病棟が多くなり、地元で入院する患者が多くなっていると思われる。しかし、海老名、厚木などの県央地域、県西の地域などは依然当院が中心となって受入れているが、単身者や老夫婦世帯が増え介護者も高齢化し交通の便が不便な当院に入院することが難しい状況となっている。また、現在、脳梗塞の治療技術では早期に血栓溶解療法で（t-P Aという薬を点滴で体内へ）対応し、後遺症も少なく直接自宅へ戻る方も増えており入院に至らないケースも多くあると思われる。今後も紹介元病院との連携を強化し患者確保につとめる。
③ その他特記事項		

(12) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター（外来）

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	1,155 人	1,000 人	15.5 %
11月	873 人	764 人	14.3 %
12月	819 人	786 人	4.2 %
1月	779 人	734 人	6.1 %
2月	736 人	811 人	▲ 9.2 %
3月	788 人	815 人	▲ 3.3 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	7,450 人	4,666 人	4,844 人	▲ 37.4 %	▲ 3.7 %
今年度下半期計	7,200 人	5,150 人	4,910 人	▲ 28.5 %	4.9 %
今年度合計	14,650 人	9,816 人	9,754 人	▲ 33.0 %	0.7 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	七沢病院は、交通便が悪く正面玄関に入ってくるバスは、愛甲石田駅からのバスのみで1時間に1本あるかないかで、通院には向かない状況となっています。退院患者のフォローについても後遺症がある方がほとんどのため患者の地元の医院を紹介するケースが多くなっています。また、23年度に内科の医師が、退職したことが影響していると思われます。
③ その他特記事項		

6 苦情・要望等の状況

七沢学園（児童）

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数の うち所管課受付分	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)

七沢学園（成人）

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数の うち所管課受付分	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)

七沢療育園

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数の うち所管課受付分	5 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)

七沢更生ライトホーム

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数の うち所管課受付分	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)

神奈川リハビリテーション病院

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数の うち所管課受付分	18 (0)	0 (0)	31 (0)	0 (0)	0 (0)	49 (0)

七沢リハビリテーション病院脳血管センター

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数の うち所管課受付分	5 (0)	2 (0)	31 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (0)

(参考)

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数	0	0	0	0	0	0
下段：報告件数のうち所管課受付分	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

分野	概要	対応状況
職員対応	主治医に大変詳しく説明していただき安心して入院生活が出来ます。また、各種案件について対応が早く嬉しいです。	主治医へ感謝の言葉があったことを伝える。
事業内容	子供が、退院後、いろいろなことが少しずつできるようになり、成長が見られ嬉しいです。通知表を同封したので、子供の頑張りを確認してほしい。	病棟責任者とスタッフへ退院後の経過が良好であり、感謝の言葉をいただいたことを伝えた。

8 事故や不祥事等の発生状況

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)
1月29日	男性臨時職員による七沢学園入所女性に対する不適切な行為（胸部等への身体的接触）があった。	不祥事の発生を受け、2月1日に事業団への随時モニタリングを実施し、2月4日付で改善勧告を通知するとともに、被害者や他の入所者への心のケアを図るよう指導した。	人権や虐待に関する研修などの受講機会を設けていたが、臨時職員や非常勤職員が参加できる体制になっていなかった。また、利用者との接し方について、具体的なルール（距離のとり方等）ができていなかった。

9 随時モニタリングの実施状況

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
2月1日 (1月29日)	社会福祉法による法人監査、児童福祉法、児童虐待防止法による調査とともに、指定管理上の問題点について調査した。	七沢学園の管理運営が適切に行われていなかったことから、改善計画を速やかに提出するよう勧告した。
()		
()		

10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等

今年度の利用者数が前年同期比で1割以上減じている施設も一部あるが、七沢リハビリテーション病院脳血管センターのように前年同期比でプラスに転じている施設もあり、また、収支状況に関しては収支差額で黒字を示すなど、効果的・効率的な施設運営に努めてきたものと評価される。

ただし、2病院で目標利用者数に対して利用者実績が下回っていることから、今後も改善への取組を進めるよう指導する。

また、(社福)神奈川県総合リハビリテーション事業団は、効果的・効率的な運営に向け、平成23年3月に策定した新経営計画改訂計画(R21)変更実施計画に基づき、社会環境の変化や新たな課題に柔軟に対応した取組を進めており、その効果は人件費の削減などに現れていることから、今後もこの計画が着実に推進されるよう指導を継続して行う。